



# いずみ

No.57

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 27



《月のかけら 3》

Zoo factory 岸本 幸雄  
(2 ページに「作者の言葉」)

## 自作自選 27 作者の言葉

月から落ちてきた月のかけらを拾い集めています。今までに 20 数個集めました。大小様々ですがこれは三番目に大きいものです。たわわなふくらみとシャープなエッジラインのあるかたちが結構気に入っています。

おもしろいのはさわったり押したりすると起き上がり小法師のようにぐらりと傾きまた元に戻ります。たのしいのでもう少し集めてみます。(Zoo factory 岸本 幸雄)

タイトル：「月のかけら 3」

制作年：2014 年

素材：カラマツなど

サイズ：W60×D60×H75 cm

設置場所：作者蔵

## 連載 宮の森の四季 27

本郷新記念札幌彫刻美術館

### ロダンに「タッチ」する新感覚

館長 寺嶋 弘道

開館 35 周年を記念する「ロダン展」のイベント「ロダンにタッチ！」が好評だった。いつもは「お手を触れないでください」とお堅い美術館。しかし、視覚体験に触覚を加えた作品鑑賞は誰にとっても新たな経験となることだろう。触覚の芸術とも呼ばれる彫刻を扱う美術館ならではのユニバーサルな鑑賞方法ではないか。

タッチとは言っても、実際には白手袋を装着しての鑑賞ゆえ、直に触れられるわけではない。だが、見るのと触るのとでは大違い。皮膚感覚はおおいに刺激され、作品の凹凸はもちろん、ロダンがなぞった手のひらの跡を見つけたり、粘土を押しつけた凹みに自分の指がピタリとはまったり、ぞくぞくするような発見がたくさんある。

始めにそっとさすってみると、ブロンズ表面のつるつる、ざらざらした感じが伝わってくる。ぐっと押し付けると硬さが分かる。金属が発するこの粗さと硬さに気づくと、見た目の柔らかな曲面が彫刻固有のものだと再認識するだろう。作品の輪郭に沿って指を滑らせると、その曲面の形をはっきりと確認できる。けっこう複雑で微妙なニュアンスに富んでいる。

さらに、両手で包み込むように彫刻を掌中に収めると、曲面全体の形とともに、その体積が分かる。感激するのはこの時、もともとの素材である粘土の量を捉えることができることだ。ロダンが芯棒にむかって肉付けした土の量塊を実感できるのである。

もっことした粘土の量感。優れた彫刻家たるロダンの作品の圧倒的な生命感、自由闊達な手わざによるこの肉付けから生まれている。超絶のモデリングのなせる業だ。

さて、かたや本郷新の作品はどうだろうか。最後に、本郷新にもタッチしてみよう！

## 「小さな美術館の小さな試み」

柴 勤  
(小川原脩記念美術館館長)

地域とどう関わり、その中でどのような役割を果たしていくか、どの美術館でも頭を悩ませていることでしょう。おそらく美術館の数だけ考え方があると思いますが、ここでは地方にある小さな美術館のユニークな取り組みを紹介します。

現在、小川原脩記念美術館では「しりべしミュージアムロード共同展」が開催されています。「ミュージアムロード」、後志地方に点在するミュージアムを結ぶ道筋をこう名付けているのです。この地域には、車で45分圏内に、荒井記念美術館、有島記念館、木田金次郎美術館、西村計雄記念美術館、そして当館があり、日常的に連携を図っています。その最大のもので、年に一度の共同企画による展覧会なのです。

15年目を迎えるこの共同展、今回の共通テーマは「美術と音楽」です。これはさらに各館ごと、形や色、線、リズムなどに細分化され、それぞれの内容に相応しい所蔵品を各館が提供し合います。共通テーマの5つの展覧会が、こうして一斉に同時オープンするのです。いろいろな局面で厳しい環境にある小規模の美術館・文学館が、あたかも一つの館のように手を組むことで、より大きなパワー、発信力を得ようとする試みですが、さらに、この時期に急増する長期滞在者も重要なターゲットとなっています。

もう一つのユニークな企画は「くっちゃんアート」。これは、地元の美術を紹介するだけではありません。この地域の国際性を反映させて、長期、短期の外国籍の美術家、さらには、何らかの形で地元とつながりの

ある外国在住の美術家まで視野に入れているのです。今年の場合は、オーストラリア2名、オーストリア、ルーマニア、韓国が各1名と、21名中5名が外国籍でした。さらに数回に分けて実施したアーティスト・トークは、海外からも原稿をメールで送ってくるなど、最終的には全員が参加する一大イベントとなりました。聴講者も意外なほど多く、作品を間に、作家と鑑賞者との間に一つの繋がりが生まれたような気がします。

最後に普及事業から一つ。月に1~3回、「土曜サロン」と名付けた美術講座を行っています。普段は映像を流している小部屋を使用することから、文字通りサロンのような雰囲気が生まれる講座です。そして終了後には、普段からコーヒーを無料サービスしている休憩コーナーを舞台とした、もう一つのサロンが待っています。受講者の多くはこのコーナーへと移動し、疲れを癒します。役場の職員から画家、主婦、旅行者、長期滞在者と顔ぶれは様ざま。多様な人々が自宅の居間で寛ぐように、ロビーの一角でコーヒー片手に美術や地域の話で花を咲かす。これも、美術館のあり方の一つでしょう。

地域に開かれた美術館、とはよく耳にするフレーズですが、俱知安の場合は、地域に根付きながら外にも向かって開かれた美術館、と言ったらよいでしょうか。土曜サロンでさえ、地元のパン屋さんの隣りに、アメリカ人やフランス人が座っていたりするのであります。

## 「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄です」

加藤 知美

(認定NPO法人

アルテピアッツァびばい事務局チーフ)

電話口で嘯みそうになりながら一気に名乗ります。相手が困惑していれば、「4月から名称が変わりましたが、アルテです」と付け加えることも。イタリア語で芸術広場を意味する「アルテピアッツァ」を、美唄市と彫刻家安田侃氏が創り始めたのが25年前。炭鉱で栄えた町の小学校の体育館と木造校舎を再生して創られ続け、7万平方メートルに40数点の大理石やブロンズ作品が置かれ、自然と芸術の調和する空間は、今年4月に「美術館」になりました。

博物館法では、設置主体や学芸員などの要件により「登録博物館」「相当施設」「類似施設」が定められています。このたび、美唄市がアルテピアッツァを登録博物館（美術館）に登録して、より質の高い文化の創造に寄与することを目指し、名称も「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」としたものです。

もとより安田侃氏が「公園でもあり、幼稚園でもあり、美術館でもある空間」と形容していたように、栄幼稚園の園児が無邪気に遊ぶ姿を目にして「この子たちが心を広げられる広場をつくろう」という思いから25年をかけて、一人のアーティストが、公共的な芸術空間として今なお創り続けている場所で、世界的に見ても稀有な存在です。10年前から指定管理者制度によりNPOが管理運営に携わっていますが、その設立総会では、入場無料を続けることの是非

が議論となりました。来訪者の数に依拠せず「感動した」とか「また戻ってきたい」ということに価値をおこうとの結論に至り、豊かさの新しい機軸を作り出すチャレンジが始まりました。この場所を一緒に支える「アルテ市民」や、来訪を機に感動を寄附金として託してくださる方々のおかげで、その後もブレずに入場無料は続いています。

そして、ここでは、キャプションも順路の指定もなく、触れることもよしかかることも自由です。安田侃氏の彫刻作品に自分の心を映し、自身と対話をして過ごす人も多くいます。一人一人が自由に感じてもらえばよいのですが、そうした美術館のありようは一般的ではないためか戸惑う来訪者も多く、作品鑑賞の橋渡しができればと近年は教育普及の活動にも力をいれています。また、「美術館」の肩書を持つようになってからは、地域社会で果たす役割を意識し、学校教育との連携も模索しています。

子どもたちと一緒に彫刻鑑賞をすると、いろいろな「発見」を教えてもらうことがあります。このかけがえのない空間を次世代につなぐことができると確信する瞬間です。この美術館に親しんで育ち、東京や外国の公共空間にも安田侃氏の作品があることを知り、いつか大人になったときにふるさとの美術館を支える存在になることを願ってやみません。

## 仙台彫刻研修旅行

# 定禅寺通りのケヤキ並木と彫刻のハーモニー 多くを学んだ彫刻設置“仙台方式”

細川房子（会員）

2016年6月21日から2泊3日で友の会のメンバー10人で仙台へ研修旅行に行ってきました。

旅行の目的は昨年秋のシンポジウムでパネリストとして参加した、仙台の「彫刻のあるまちづくり応援隊」村上道子さんの案内で仙台の彫刻清掃活動を見学することと、私たちの今後の市民文化活動を展開するための見聞を広めることでした。旅行の目的を中心に旅の報告をします。

仙台市では市制施行88周年記念事業として昭和52年度から「彫刻のあるまちづくり事業」を行い、24年間にわたり、1年に1作品ずつ彫刻を設置して完了しました。作品設置は現地の視察から作品構想など現地オーダーメイド方式を取り、「仙台方式」と呼ばれ、都市空間に調和した彫刻設置方法として多くの市町村の参考になっています。市内巡りをしながら、設置された彫刻が新たな美の創造として市民に親しまれ、杜の都・仙台の伝統に基づいた街づくりの主張になっていることを実感しました。私たちの町にも参考に出来ることでした。

次に仙台の定禅寺通りでの彫刻活動です。杜の都・仙台は想像していた通り、天高く伸びるケヤキ並木と彫刻が調和した素晴らしい街並みです。630mにわたる定禅寺通りの中央に走る緑道にはグレコやマンズー、クロチェッティといったイタリアの著名な彫刻家の作品が点在します。私たちは村上

さんの解説を聞きながら感謝の気持ちを込め、持参した雑巾で「水浴の女」「オデュッセウス」「夏の思い出」など3作品を清掃しました。初夏の風そよぐ中、彫刻は嬉しそうに頬笑み返してくれたようでした。



最後にもう1点。伊達正宗が築いた仙台城の本丸跡に設置されている「昭忠碑」（明治35年制作の日清戦争等戦没者慰霊碑）の石塔上にあるブロンズのトビは、東日本大震災で落下してしまい、現在、東京のアトリエ「ブロンズスタジオ」で修復中。10月下旬にも修復完了予定と聞いています。大きく羽を広げたブロンズの金鶏像は歴史遺産として文化価値の高いものです。大震災のもたらした被害の大きさを実感し、修復を進める関係者の努力に感動し、私達も元気をもらったような気がします。

3日間の研修旅行は勉強になることが多く、こうした成果は今後の友の会活動に生かしていきたいと思います。

第1回友の会彫刻セミナー開催

「ブロンズ彫刻の制作方法保存」をテーマに

黒川弘毅・武蔵野美大教授が講演



中島公園の《木下成太郎先生》像（朝倉文夫作、1941年）の調査

者の中には学芸員など美術関係者も多く、美術館の野外彫刻保存実態について厳しい指摘もあり、辛口のセミナーでもあった。

などで来札した黒川弘毅・武蔵野美大教授を迎えて第1回彫刻セミナーが8月31日、本郷新記念札幌彫刻美術館で行われた。

黒川教授の講演タイトルは「ブロンズ彫刻の制作方法と屋外での保存の問題点—ロダン作品をめぐる—」。

同美術館で開催中の開館35周年記念「ロダン」展に合わせて、19世紀フランスの彫刻生産様式やロダン作品の製造方法などエピソードを交えながら詳説。さらに、ブロンズ彫刻の一般的なメンテナンス方法を解説した。



内容がやや専門的になることから、40人ほどの参加

《木下成太郎先生》が内視鏡検査

黒川教授がブロンズ像内部チェック

彫刻セミナーの翌9月1日、黒川教授の指導で友の会のメンバーが「木下成太郎像」を清掃した後、同教授が工業用の内視鏡（ファイバースコープ）を木下像の像と台座の接合部分か



ら内視鏡を差し入れ、台座部分の接合状態や損傷の有無など

を調べた。その結果、ブロンズ像本体と台座をつなぐ鉄製ボルトが腐食していることが分かった。

本郷新記念彫刻美術館

「ロダンナイト」で35周年

本郷新記念札幌彫刻美術館が開館35周年を迎え、7月17日、開催中の「ロダン」展と合わせた記念セレモニー「ロダンナイト」を催した。

セレモニーは午後5時から会場を無料開館とし、多くの家族連れも訪れ、200人が開館35周年を祝った。友の会からも橋本会長ほか10人を超える会員が参加した。

本郷新の孫で、劇団「無名塾」（仲代達矢主宰）の俳優として活躍する本郷弦さんが高村光太郎翻訳・編集の「ロダンの言葉」、本郷新の著作「彫刻の美」の一部を朗読するなど、ロダンと本郷新のつながりを感じられる一夜となった。

同美術館は郷土の彫刻家・本郷新（1905～1980）の遺志を継ぎ、1981年、本郷のアトリエと所蔵作品展示を目的に財団法人札幌彫刻美術館として開館、2007年、札幌市芸術文化財団の運営となり、現在の「本郷新記念札幌彫刻美術館」に改称した。なお、札幌彫刻美術館友の会も美術館発足と同時に結成され、現在の活動を続けている。

## 中島公園「かもくま祭」

## 友の会「彫刻たんけん隊」雨に泣く

中島公園周辺の地域団体などが主催する第10回「かもくま祭」が7月10日、中島公園児童会館前広場などで催され、友の会は子供たちを対象にした「彫刻たんけん隊」のイベントを準備して参加した。



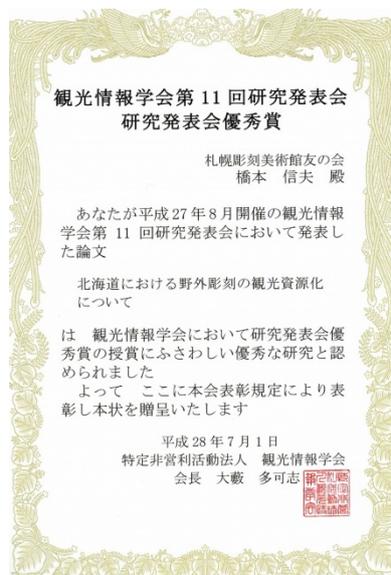
友の会がこの祭りに参加するのは今年で4回目。「彫刻たんけん隊」の黄色の旗を掲げて準備万端整えたが、朝からの雨が止まず、テント内にも雨水が入り込む始末で、園内の4体の彫刻を巡り、子供たちと清掃する予定だったイベントを断念。子供たちに参加賞のお土産とバルーンアートの風船を配って終了した。

## 友の会の研究発表に

## 観光情報学会優秀賞受賞

昨年8月、小樽商大で行われた観光情報学会の第11回研究発表会で橋本信夫会長が発表した論文「北海道における野外

彫刻の観光資源化について」が同学会の優秀研究発表と認められ、7月、橋本会長に賞状が贈られた。



論文は道内の野外彫刻のデータベースを基に彫刻地図コンテンツを作り、ロードマップと結びつけた彫刻ナビゲーションシステムとして野外彫刻を観光資源として役立てることが可能だと提言した。論文は同学会の講演資料集にも収録された。

## 札幌ドームで彫刻鑑賞

## 広大な敷地をテクテク

## 第4回彫刻学習会

友の会の第4回彫刻学習会が7月25日に行われ、豊平区の札幌ドーム内外に点在する彫刻群を鑑賞した。

ドーム周辺のサッカー練習場などの周辺一帯には24点の彫刻作品が点在するが、この日はコンサドーレの試合がありドーム内には立ち入ることが出来なかったため、3点を除く21点を見て回った。

この日の参加者は11人。足に自信のなかった会員も爽やかな風の吹く絶好のピクニック日和の中、広いドームを難なく1周した。ちょうど配信のはじまったネットゲーム「ポケモンGO」の中でアイテムをもらえるポケストップという拠点に各作品が指定されているため、普



段は彫刻に関心がなさそうな若者が熱心に探し回っている姿も。

札幌ドームでの鑑賞を終えた後は隣接の清田区真栄の住宅街にある「しんえい四季のまち」のミニ彫刻公園を見学した。

ここは20数年前の団地造成時に住宅街の中に彫刻6点を配した小公園。國松明日香、松隈康夫らの作品が並び、行き交う住民の目を癒している。

## 事務局日誌

▼6月19日＝中島公園鴨々川清掃参加▼21～23日＝仙台市野外彫刻視察旅行▼30日＝芸術の森・佐藤友哉館長表敬訪問▼7月6日＝観光情報学会から第11回研究発表会優秀賞受賞▼9、10日中島公園かもくま祭参加（雨天）▼17日＝道庁赤レンガ庁舎前庭彫刻清掃▼17日＝彫刻美術館35周年記念「ロダンナイト」に参加▼8月9日＝中島公園のコンクリート彫刻《母と子の像》にパーマシールド塗布▼27日＝中島公園キッズガーデン彫刻清掃参▼31日＝黒川弘毅・武蔵野美大教授を招き彫刻美術館で彫刻セミナー開催▼黒川教授の指導で《木下成太郎先生》像を内視鏡検査

## 編集後記

▼この夏はほとんどの台風が北海道に接近、各地で大きな被害が出た。日本を取り巻く気象変動の影響を感じる▼そんな中でも友の会の彫刻清掃はほぼ順調にスケジュールをこなしたようだ。10月はケプロン・黒田像の大型もあり、好天を祈るの。（大内）

札幌彫刻美術館友の会  
会報「いずみ」 No.57

2016年10月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

（札幌市清田区清田5-4-6-30

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」57号 目次

自作自選27《月のかけら 3》	岸本幸雄	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季27「ロダンにタッチする新感覚」	寺嶋弘道	2
風見鶏「小さな美術館の小さな試み」	柴 勤	3
寄稿「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄です」	加藤知美	4
レポート「仙台彫刻研修旅行」	細川房子	5
友の会ニュース		6-7
友の会彫刻学習セミナー/木下像を内視鏡検査/彫刻美術館35周年祝う/かもくま祭/観光情報学会賞受賞/札幌ドームで彫刻鑑賞		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本 館

#### ■野又圭司展

10月5日[水]～12月4日[日]

新たな彫刻表現に意欲的に取り組む中堅作家の個展シリーズ第2回。建築物などの精巧な造形による表現を通して現代社会を鋭く批評する野又圭司の作品世界を紹介。

#### ■コレクション展 あなたが選ぶ本郷新この1点

12月10日[土]～2017年4月9日[日]

### 記念館

#### ■常設展示（通年）

開館35周年記念「本郷新と札幌彫刻美術館」

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>